

# InterSecVM/LB V7.0 アップデート適用手順書

## 商標について

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

## 目次

はじめに .....	- 1 -
アップデートモジュール適用時の注意・制限事項 .....	- 2 -
スタンドアロン構成 .....	- 2 -
フェイルオーバークラスタ構成 .....	- 3 -
1. オンラインアップデートの実施手順 .....	- 5 -
2. コマンドラインからのアップデートの実施手順 .....	- 9 -
3. バックアップの実施 .....	- 10 -

## はじめに

本ドキュメントは、InterSecVM/LB V7.0(以下、LB と表記します) で公開しているアップデートの適用手順について記載しています。下記の製品が対象です

- UL4653-601 [InterSecVM/LB V7.0 for VMware]
- UL4653-721 [InterSecVM/LB V7.0 for Hyper-V]

LB のアップデート適用は、以下のいずれかの方法で行うことができます。

### オンラインアップデート

オンラインアップデートは、LB に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し、Management Console 画面から適用します。

### コマンドラインからのアップデート

アップデートモジュールのコンテンツへの閲覧は、製品保守契約を結んでいただいたお客様向けに可能となります。ダウンロードするためには、NEC サポートポータルサイトへのログインが必要となります。PP サポートの保守契約がお済みでないお客様は、保守契約を締結後、ダウンロードを実施してください。

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

## アップデートモジュール適用時の注意・制限事項

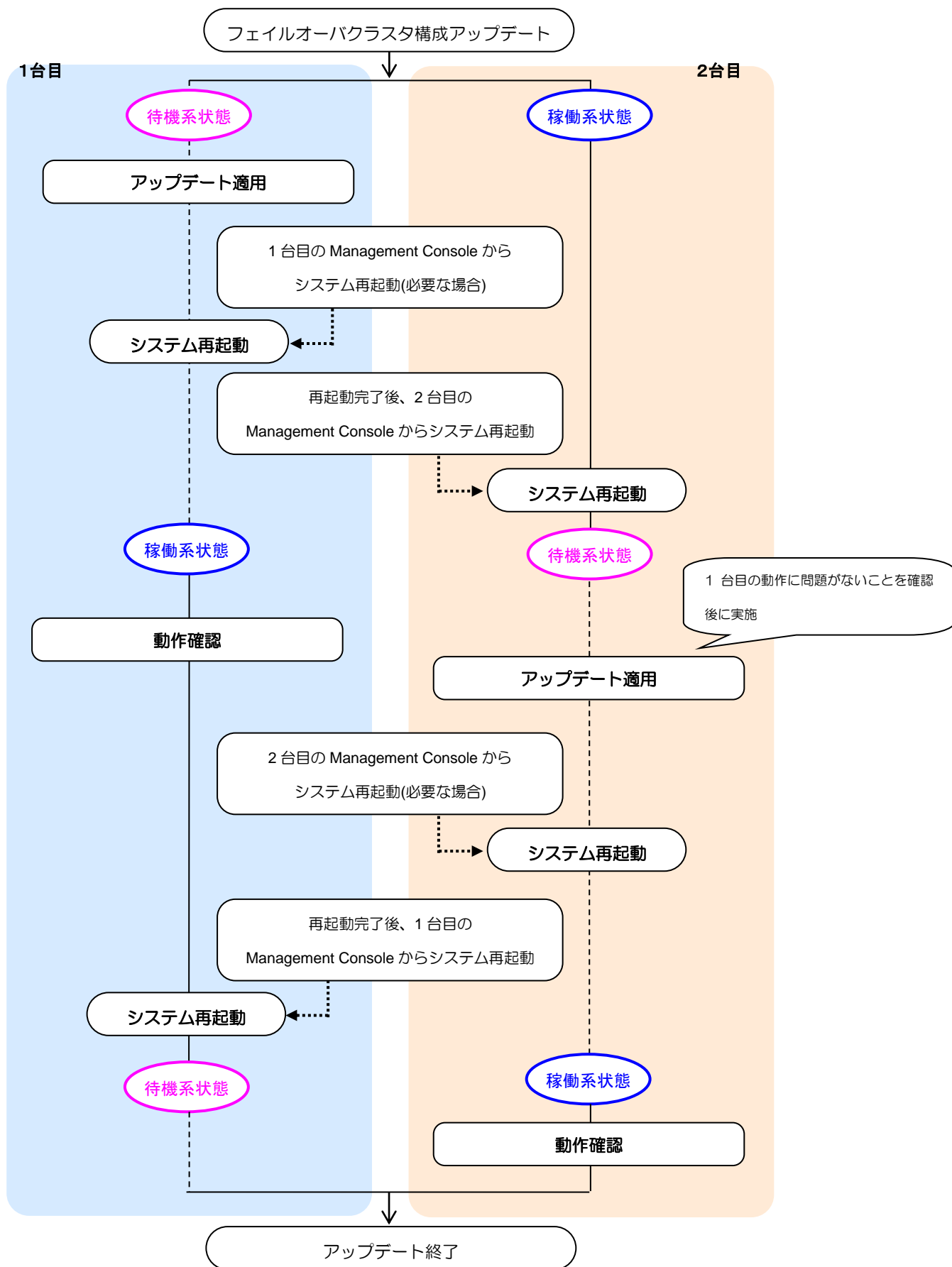
### スタンドアロン構成

- アップデートモジュール適用前や適用後には LB のバックアップを実行してください。
- アップデートモジュールは、公開されている最新のリリースバージョンを適用してください。同一モジュールパッケージが複数公開されている場合は、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュール適用後にシステムの再起動が必要な場合があります。システム再起動の要不要は、アップデートのリリースノートをご確認ください。

## フェイルオーバークラスタ構成

- アップデートモジュール適用前や適用後には LB のバックアップを実行してください。
- アップデートモジュールは、公開されている最新のリリースを適用してください。  
同一モジュールパッケージが複数公開されている場合は、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュールの適用は、適用するサーバを待機系にして行ってください。
- アップデートモジュール適用後にシステムの再起動が必要な場合があります。  
システム再起動の要不要は、アップデートのリリースノートをご確認ください。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は必ず、Management Console  
もしくは LB のコンソールからシステムの再起動を行ってください。  
※LB では、アップデートモジュール適用の際に負荷分散サービスの停止および、  
クラスタ監視を停止する必要があるため、CLUSTERPRO WebManager から再起動を  
行うことはできません。
- オンラインアップデートを利用して複数のアップデートモジュールを適用する場合、  
アップデートモジュールの適用毎にシステムの再起動が必要です。

フェイルオーバークラスタ構成時の両系サーバにおける適用の流れは次のとおりです。



## 1. オンラインアップデートの実施手順

オンラインアップデートは、LB に必要なアップデートモジュールをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。すべての操作は、Management Console(システム管理者)画面から行うことができます。



オンラインアップデートを行う場合は、LB がインターネット上のサーバに http プロトコルにて接続可能な環境であることが必要です。

- (1) クライアント PC から Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https : // example.co.jp : 50453/`

Management Console のセキュリティモードがレベル 1 の場合

`http : // example.co.jp : 50090/`



URL にホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができることが必要です。名前解決できない場合は、IP アドレスを指定してください。

- (2) 「パッケージ > オンラインアップデート」画面を開いてください。

The screenshot shows the Management Console interface for InterSecVM/LB V7.0. The left sidebar contains a menu with 'パッケージ' (Packages) highlighted and circled with a red '1'. The main content area shows the 'パッケージ' (Packages) page with three buttons: 'オンラインアップデート' (Online Update), '手動インストール' (Manual Install), and 'パッケージの一覧' (Package List). The 'オンラインアップデート' button is circled with a red '2'. The footer displays 'NEC Copyright (C) NEC Corporation 2000 - 2022'.



- (3) オンラインアップデートを初めて利用する場合、ユーザ認証画面が表示されます。  
基本サポートサービスの購入・未購入に関わらず「認証しない」をクリックしてください。

■ ユーザ認証

サポートサービスを購入済みのお客様は、認証を行うことで購入者のみに公開されているアップデートモジュールを適用することができます。未購入のお客様は「認証しない」をクリックしてください。

ユーザID:

パスワード:

サポートID:

型番 UL

取得用 proxy アドレス:

取得用 proxy ポート:

送信



サポートサービス未購入のお客様は、認証ができないため、購入ユーザ向けに公開されているモジュールは参照できませんが、未購入ユーザ向けにも公開されているモジュールを「認証しない」ボタンによって参照・適用することが可能です。

- (4) アップデートモジュールが提供されている公開サーバにインターネット経由で接続を行い、現在公開されている最新のアップデートモジュール一覧が表示されます。  
過去にオンラインアップデートを実行済みの場合は、最新のアップデートモジュール一覧を取得するために[最新情報に更新]ボタンをクリックしてください(以下は実際の画面とは異なる場合があります)。

最終更新日付： 2022/08/24  
最新情報に更新

アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2022/8/9	InterSecVM/LB V7.0 for VMware(UL4653-601) アップデートモジュール Rel 1.0(※必ず[詳細情報]をクリックし、内容をご確認下さい) [詳細情報]	UL4653-601_UpdateModule-1.0	未	適用

NEC Copyright (C) NEC Corporation 2000 - 2022



アップデート情報の各内容は以下のとおりです。

- 「公開日」            アップデートが公開された日付を表示します
- 「概要」             アップデート名称を表示します
- 「パッケージ名」    アップデートパッケージ名を表示します
- 「適用」             適用状態を表示します

[詳細情報]や、各パッケージ名をクリックすることで詳細な情報を参照することができます。特に[詳細情報]にはアップデートの適用に関して重要な注意事項が記載されていることがありますので、[適用]をクリックする前に必ずご一読ください。

- (5) アップデートモジュールの[適用]ボタンをクリックしてください。

アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2022/8/9	InterSecVM/LB V7.0 for VMware(UL4653-601) アップデートモジュール Rel 1.0(※必ず[詳細情報]をクリックし、内容をご確認下さい) [詳細情報]	UL4653-601_UpdateModule-1.0	未	適用

パッケージファイルのダウンロードメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

.....の内容

パッケージファイルをダウンロードして信頼性検査を行います。よろしいですか？

- (6) 信頼性の確認画面が表示されます。[OK]をクリックして次へ進んでください  
(以下は実際の画面とは異なる場合があります)。

信頼性の確認	
ファイルの取得が完了しました。 適用前に、ファイルが正しいものかどうか確認を行ってください。 各パッケージのMD5メッセージ・ダイジェストは以下です。	
パッケージ	MD5メッセージ・ダイジェスト
UL4653-601_UpdateModule-1.0.tar.gz	9a44ed7ebbf41ffe5d16f08c03699c21
弊社アップデートモジュール公開ウェブサイトに掲載されている文字列と比較してください。 同じ場合は正常に転送されていますので、「OK」ボタンをクリックしてアップデートモジュールを適用してください。 文字列が異なる場合は、転送に失敗している可能性があります。「キャンセル」でモジュール一覧画面に戻り、再度「適用」を実行してください。 ※アップデートモジュールの適用にあたり、負荷分散サービスが停止します。この先アップデートモジュールの適用が完了するまで操作出来なくなりますのでご注意ください。	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	



この画面が表示された場合は、信頼性の確認が正常に行われています。ダウンロードしたパッケージのチェックサムが不正な場合、チェックサム不正のエラー画面が表示されますので、手順(5)の画面から再度「適用」ボタンをクリックしてください。

- (7) アップデートモジュールの適用が開始されると操作結果通知画面が表示されます。再起動通知画面に遷移するまで、お待ちください。

操作結果通知
アップデートモジュールの適用を開始しました。完了までに数分掛かります。画面が遷移するまで操作を行わないでください。

- (8) 再起動通知画面が表示されたら「再起動」ボタンをクリックしてシステムを再起動してください。

再起動通知
アップデートモジュールの適用が完了しました。 システム再起動を行うため、必ず[再起動]ボタンをクリックしてください。
<input type="button" value="再起動"/>

## 2. コマンドラインからのアップデートの実施手順

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

コマンドラインからのアップデートでは、複数のアップデートをシステムの再起動なしに適用することができます。システムの再起動は、すべてのアップデートを適用した最後に行います。

ここでは、予め入手したLB用アップデートモジュール「UL4653-601\_UpdateModule-1.0.tar.gz」をLBの/tmpディレクトリにコピーされているものとして説明します。

- (1) LBにログインしてください。



アップデートの実行は、rootアカウントで行う必要があります。  
LBにログインした後、suコマンドでrootアカウントに変更しておいてください。  
「su - root」を実行することでrootアカウントに変更できます。

```
# su - root
```

- (2) /tmpディレクトリに移動し、アップデートモジュールを展開してください。

```
# cd /tmp  
# tar xvfz UL4653-601_UpdateModule-1.0.tar.gz
```

- (3) アップデートコマンドを実行してください。

```
# ./UL4653-601_UpdateModule-1.0.sh
```

アップデートの実行状態が表示されます。

```
UL4653-601_UpdateModule-1.0 Update Start  
アップデート情報が表示されます  
InterSec/LBVM70 UpdateModule-1.0 install finish!!
```

- (4) /tmpディレクトリにて以下のコマンドを実行し、不要なファイルを削除します

```
# rm -f UL4653-601_UpdateModule-1.0.tar.gz  
# rm -f UL4653-601_UpdateModule-1.0.sh  
# rm -rf UL4653-601_UpdateModule-1.0
```

- (5) 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した場合、システムを再起動してください。



再起動を行う際は、Management Console もしくはLBのコンソールから行ってください。

### 3. バックアップの実施

アップデートモジュールを適用する前や、適用した後には、必ず LB のバックアップを実行してください。

万が一、アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すことになった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があります。



バックアップデータをリストアする場合、バックアップ実行時と同じアップデートモジュールを適用した状態でリストアを実行してください。例えば、アップデート Rel.1.2 適用状態でバックアップしたデータは、同じく Rel.1.2 適用状態でリストアされることを想定しています。

バックアップ、リストアの操作手順については、ユーザーズガイドおよび Management Console のオンラインヘルプを参照してください。